

第3学年 保健体育科学習指導案

日時 平成27年10月29日(木) 公開授業Ⅲ

生徒 3年1,2組(1組女子15名 2組女子16名 計31名)

指導者 高際 富貴子

1 単元名 E、球技(ゴール型)「バスケットボール」

2 単元について

(1) 教材について

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

バスケットボールにおいては、第1, 2学年でパス・シュート・ドリブルなどの個人的技能の習得を行った。第3学年では、安定したボール操作などの個人的技能を更に高め、仲間と連携してゴール前の空間を使った攻防を展開できるように指導する。

その際、人との激しい接触やスピーディーな展開を苦手とする生徒も達成感を味わうことができるよう、役割の視点をできるだけたくさん与え、チームに貢献する喜びを感じさせたい。

(2) 生徒について

第1, 2学年では、ボールハンドリング・パス・シュート・ドリブル・ピボットなどの基本技能のポイントを学習し、遊び感覚でボールに親しむ時間を多めにとってきた。できる・できないという技能の個人差も生まれてきており、全員の基本技能定着までには至っていない。

2年目の集団ということで、生徒相互の運動に対する技能や意識の共通理解は図れているので、自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦を立てて、仲間と連携した動きによってゴール前に侵入する攻防を展開させたい。

(3) 指導にあたって

個人技能の未定着という実態を受けて、単元の初めや各授業のウォーミングアップとして、様々な身のこなしの中で、体のあらゆる部位でボールに触れさせ、ボールを手や指先でコントロールしたり、キャッチしたり、ボールの行方を予測して触ったりする感覚を身に付けさせたい。また、ゲームではパスを有効に活用した集団的技能を重視し、そのために必要な「パスをもらう人の空間への走りこみ」や「パスを出す人の状況判断」などを感覚的に理解させるドリルを仕組み、仲間と連携した動きにつなげたい。

「見通す・振り返る」に関しては、単元の最初に学習内容とおおまかな流れを説明すると共に、模範となる試合のビデオを見せ、全体的な理想のイメージを持たせる。また、各授業では、ペアやグループでそれぞれの課題に対する達成状況やアドバイス等を話し合う場面をできるだけ多く設定し、技能の共有を図ると共に、優れたものに対しては全体の前で評価し、意欲的に取り組む姿勢を育てたい。

3 単元の目標

○安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開する。

【 技能 】

○球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。

【 態度 】

○技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

【 知識、思考・判断 】

4 指導計画 (E、球技〔ゴール型〕「バスケットボール」：12時間扱い 本時8/12)

次	時間	主な学習活動
一	2	・オリエンテーション、ビデオ鑑賞、チーム編成を行う。(学習目標を確認し、流れの見通しをもつ) ・試しのゲームを行い、自分やチームの技能・課題を確認する。
二	4	・シュート、ドリブル、パス、ピボットターン、ディフェンスなどの基本技能の習得を行う。 (第1, 2学年での既習内容の振り返りも含む)
三	3	・仲間と連携した攻撃を学習し、チームの特徴や課題に応じた練習を行う。(2/3本時) (アウトナンバープレー・パス&ラン・カットインプレー・スクリーンプレーなど)
四	3	・これまでの学習や練習で身につけてきたことをいかし、まとめのゲームを行う。

5 本時の指導について

(1) **目標** 素早いパス回しでボールをつなぎ、ゴールに向かうためのコツを見つけることができるようにする。

(2) 評価規準

観 点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手だて
運動についての思考・判断	素早いパス回しでボールをつなぐために必要な動き（空間への走りこみ・空間へのパス等）を考え、自分やチームに足りないところを分析し、解決のための動きを工夫している。	失敗やつまずきの原因を振り返らせるとともに、他の人やチームのいいところを参考にするように助言する。

(3) 指導の構想

- ・学習カードに個人ごとの振り返りを記入させ、発表させ全体のものとする。
- ・展開の途中で「チームミーティング」を設定し、本時の目標に迫るための振り返りをさせるとともに、優れたチームの模範ゲームを紹介して共有化を図る。その後の「確かめのゲーム」で、どのくらい目標に迫れたかを更に振り返らせる。

(4) 展開

段 階	学 習 活 動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点（方法） ☆「見通す・振り返る」活動
導 入 10分	1 整列・挨拶をする	全	○黙想をさせ、気持ちを落ち着かせる ○毎時間、繰り返して行い、ボール感覚を身に付けさせる ☆前時の学習を想起させ、本時の学習に結びつける
	2 準備体操・アップドリルをチームごとに行う	チ	
	3 本時の目標を確認する	全	
	素早いパス回しでボールをつなぎ、ゴールに向かうためのコツを見つけよう。		
展 開 32分	4 ハーフコートで、ドリブルなしの簡易ゲームを行う ※特別ルール・2分間	チ	○本時の目標を意識させ、うまくいかないところをみつけるゲームとさせる
	5 チームミーティングを行い、自分やチームの課題を見つけ解決策を考える	チ	☆どんなときスムーズなパスができたか、できなかったかを話し合わせ振り返らせる（カード記入） ☆素早いパス回しのチームからヒントをつかませ、これからの練習の見通しを持たせる ○課題解決の視点を与える（ピボット・空間・距離・声など） ●【思考・判断】…学習カードに記入された内容を読み取る
	6 確かめのゲームを行う ※4と同じルール	チ	○チームミーティングの内容を意識させる
終 末 8分	7 本時の振り返りをする	個	☆本時の活動を振り返り、自分の学びの評価を行う ○何人かに発表させ、共有化を図る
	8 挨拶・片付けをする	全	<ul style="list-style-type: none"> ・レシーバーは、空間を見つけて走りこむと、素早いパス回しでゴールに向かうことができた。 ・パッサーは、視野を確保しながらピボットを行い、空間へリードパスするとパスが繋がった。 ・空間を作るために守備の人をひきつけた。